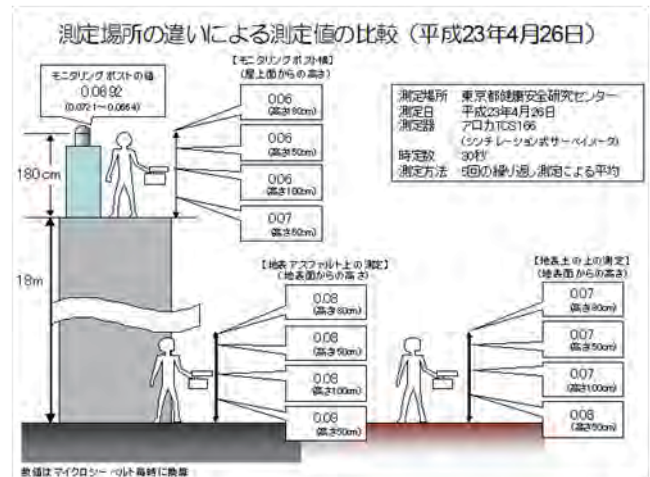


世田谷のラジウム事件の不思議

放射線は、化学物質に比してもともと極めて微量でも計測が可能であり、また簡易型の計測器が普及して、世の中の放射線源はことごとく見つかるようになりました。一般の人々を含む人海戦術による「放射線刈り」は、極めて効率が良い事が良く分かります。しかし、一般の人が見付けた結果大騒ぎになって、アッという間に静かになり、その後何も聞こえてこない「世田谷のラジウム事件」の顛末は何故か合点がいかないのです。世田谷の住宅の床下からラジウムが見付かった後にはスーパーの駐車場でも見付かりました。この二つの事件から考えなくてはならない点はよく似ていますので、まず、先の件の不思議について述べてみたいと思います。

- (1) 見付かったラジウムの総ベクレル数が発表されないこと。
- (2) 何十年もその上に住んでいた人には何の障害も現れず健康であるのに、見付かった途端に危険物となること。
- (3) この様な事例が出たにもかかわらず、原子力安全委員会や文部科学省から健康被害が発生していない事について何の説明もコメントも出されないこと。
- (4) 放射線が危険だと言っていた人達やマスコミがあまり大きく取り上げず、真相究明をしようとの姿勢も見せないこと。



夫々の点について、考えてみましょう。

- (1) 放射能汚染の暫定基準値が例えばセシウム137については、野菜で1キログラムあたり500ベクレル等となっています。ラジウムの場合どの程度が危険とされるのか分かりませんが、床下から見付かったラジウムの総ベクレル数は一般の人の想像をはるかに超える数値である事は間違いありません。数億ベクレルというレベルではないかとの試算もあります。このような数値を発表すると、パニックが起きると勝手に決めて発表をしないのでしょうか。あるいは発表するに足りない程度の危険度だと判断されているのでしょうか。日本アイソトープ協会がこのラジウムを保管しているようですが、是非積極的に総ベクレル数を発表して欲しいのです。
- (2) これまで何の差しさわりもなかったものがなぜ突然危険なものとして扱われるのかを考えてみるよい機会が与えられたと思います。規制値がどのような数値であり、今回見付かったラジウムにより住民が受けた線量がどの程度であり、それが健康被害をもたらさなかったという事実を勘案すると、どの程度の数値が規制値とし妥当であるかを考えるべきでしょう。あるいは専門家は、この事実に基づいて、きちんとした説明をすべきでしょう。
- (3) 原子力安全委員会のもっとも重要な仕事は、国民の核安全を守る事ではないでしょうか。そうだとすると、今回のような事実が出てきた場合には、一般の人々が納得できる説明をする義務を負っていると思うのです。見解を発表する為には色々なことを調べる必要があるとは思いますが、今の状況を見ると、至急何らかの見解の発表をすべきだと考えます。
- (4) 放射線が危険だと言ってきた人達は今回の事実を踏まえて、改めて危険性についての説明をすべきなのではないでしょうか。一部の人は個体差であるとの説明をしている様ですが、その説明が正しいのかどうかを判断する為には、是非(1)で言った線量率、被ばく線量を国民全体が知る必要が有と考えるのです。マスコミも、新しく分かったことを尊重して、将来のために一肌脱ぐことはできないのでしょうか。政府を動かし、専門家を動かし、放射線の影響について関係者が具体的に議論をして、どのような規制値を採用するのが正しいのか、国民が納得できるような判断がなされるような環境を作り出す素地を作りだして欲しいと切望します。

今回のラジウム事件を機会として規制値の妥当性の議論が国民的規模でなされることを期待するのは、福島第一原子力発電所の事故によって放出された放射性物質による汚染が遠隔地でも過剰に恐れられていることに関係しています。もしも、世田谷で見付かったラジウムの線量が全く問題がないとしたら、今大騒ぎしている量がどのような意味をもつのかと考えるべきだからです。もしも、冷静で合理的な議論がなされたうえで、国民の多く（過半数）が納得して放射線量についての規制値を大幅に緩和することが出来れば、次のように状況の大きな改

善が実現します。

- 1) 現在避難生活を余儀なくされている多くの人達は自宅に帰ることが可能になり、避難生活に伴うストレスや苦痛から解放されます。
- 2) 廃棄処分をせざるを得ないとされている多くの食料が救われ、販売が可能になります。
- 3) 農地の汚染、海洋の汚染が有ると言われている結果、滞っている農・漁業の急速な再興が可能になります。
- 4) さらに農・漁業における風評被害が無くなり、これ等を職業としている方々への経済的な打撃が緩和されます。
- 5) 各地で行われている土壌の除染作業に伴う生産性のない膨大な経費を、復興のための前向きの作業、生産性のある作業に振り向けることが出来ます。
- 6) 放射線量の調査のために大変な量の労力が費やされています。これをもっと有用な仕事に振り向けることが出来るようになります。実は、人が動くと必ず費用が掛るので、その費用を節減する効果もあるのです。

放射線は危険ですが、それは薬や塩と同じだという喩がしばしばされています。一時に大量に摂取すれば必ず害が有ります。しかし、節度のある摂取は有益であり害は少ないのです。この考えが広く伝わって、国民の多くが現在の許容基準が十分すぎるほどに安全側に決められていることを理解するようになるよい機会が到来したと考えています。

(E. I. 記)

